

# 児童青年期の1型糖尿病患者の血糖コントロールと関連する心理的要因の検討

著者	関口 真有
学位名	博士（臨床心理学）
学位授与機関	北海道医療大学
学位授与年度	平成27年度
学位授与番号	30110甲第281号
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1145/00010432/">http://id.nii.ac.jp/1145/00010432/</a>

児童青年期の1型糖尿病患者の血糖コントロールと関連する

心理学的要因の検討

Psychological factor related with glyceimic control

among adolescents with Type 1 diabetes

平成 27 年度

北海道医療大学大学院心理科学研究科

臨床心理学専攻

関 口 真 有

## 1. 本論文のまとめ

第1章では、小児糖尿病患者の病態の理解について示し、児童青年期の1型糖尿病患者の抱える問題点について概観し、自己管理行動を高めることの重要性について述べた。第2章では、第1章で指摘された問題点として、①わが国では、児童青年期の自己管理行動に対するセルフエフィカシー及び結果期待を測定する尺度が作成されておらず、これらを測定する方法が確立されていないこと、②わが国では、児童青年期の1型糖尿病患者を対象として、児童青年期の患者が抱える問題に焦点を当てた自己管理行動に対するセルフエフィカシー、血糖コントロールに必要な自己管理行動に対するセルフエフィカシー（血糖SE）、抑うつ症状とHbA1c値との関連は明らかにされていないこと、そして、③児童青年期の1型糖尿病患者を対象として、セルフエフィカシー、結果期待、及び抑うつ症状が自己管理行動およびHbA1c値に与える影響の大きさが不明であり、これらの要因がどのように血糖コントロールと関連するのかは明らかになっていないこと、この3点を問題点とし整理し、本研究の目的と意義について述べた。

第3章では、①の問題点を解決するために、児童青年期の1型糖尿病患者53名を対象に、自己管理行動と関連する要因を測定する自己評価式尺度として、自己管理行動に対するセルフエフィカシーを測定する尺度である短縮版 Self-Efficacy for Diabetes Self-Management (SEDM) の日本語版の作成を行った(研究1-1)。また、児童青年期の1型糖尿病患者80名を対象に、自己管理行動に対する結果期待を測定する尺度である Outcome Expectations for Diabetes self-Management (OEDM) の日本語版の作成を行った(研究1-2)。その結果、SEDM日本語版、及びOEDM日本語版は、信頼性と妥当性が確認された。

第4章では、②の問題点を解決するために、児童青年期の1型糖尿病患者53名を対象に質問紙調査を実施した。その結果、SEDM得点及び血糖コントロールに必要な自己管理行動に対するセルフエフィカシー得点（血糖SE）とHbA1c値、SEDM得点と抑うつ得点との間に相関関係が認められた。学校生活や友人関係の中で自己管理行動が適切に行われていない場合には、自己管理が困難である状況における自己管理行動に対するセルフエフィカシーを高めることは、自己管理行動の向上、抑うつ症状の低減において重要な変数である可能性が示唆された。また、抑うつ症状とHbA1c値との関連が示されたことで、抑うつ症状を改善することで、自己管理行動が向上し、HbA1c値が改善できる可能性が示唆された。そして、血糖SE得点とSEDM得点との関連については、相関関係は認められなかったことから、児童青年期の1型糖尿病患者への支援については、血糖コントロールに必要な自己管理行動に対するセルフエフィカシーを高めるための支援だけではなく、自己管理が困難である状況における自己管理行動に対するセルフエフィカシーを高めるための支援の必要性が指摘された(研究2)。

第5章では、③の問題点を解決するために、児童青年期の1型糖尿病患者80名を対象に、質問紙調査を実施した。相関分析の結果、HbA1c値とSEDM得点、ネガティブな結

果期待得点 (OEDM-N) との間で関連が見られた。自己管理行動と SEDM 得点, ポジティブな結果期待得点 (OEDM-P), OEDM-N 得点, CDI 得点との間で関連が見られた。さらに, 重回帰分析の結果, 自己管理行動及び HbA1c 値に影響を及ぼしている要因として, SEDM が示され, 介入する際のターゲットとする臨床心理学的要因として自己管理行動に対するセルフエフィカシーの重要性が示された (研究 3)。

## 2. 本論文の意義と今後の課題

本論文において, 児童青年期の 1 型糖尿病患者の自己管理行動に対するセルフエフィカシー及び結果期待を測定することが可能である尺度が作成されたことは, 児童青年期の 1 型糖尿病患者の理解促進だけでなく, 基礎的研究や治療効果研究の促進につながる点で非常に有益である。しかしながら, 尺度の信頼性及び妥当性に関しては, 課題も残り, さらなる検討が必要である。そして, これまで自己管理行動と関連が示されてきた, 自己管理行動に対するセルフエフィカシーや結果期待, 抑うつ症状といった心理学的要因の中で, 自己管理行動に対するセルフエフィカシーの重要性が明らかになった。糖尿病患者では, 自己管理行動の向上を狙うだけでなく, さまざまな精神的問題の解決も重要な課題である。これまでの 1 型, 及び 2 型糖尿病患者を対象とした介入研究から, 認知行動療法やコーピングスキルトレーニングの有効性も示されている。しかしながら, 児童青年期の 1 型糖尿病患者の抱える問題に焦点を当て, セルフエフィカシーの向上をターゲットとした認知行動療法の効果やコーピングスキルトレーニングに関する知見は少ない。また, わが国においては, サマーキャンプや診療場面での支援に留まっており, 本研究結果は児童青年期の 1 型糖尿病患者に対するプログラムの開発及び介入効果研究に対する新たな知見を提供するものである。